

Monthly Report

Vol.46 広報室

平成22年3月30日発行

目次:

東北リコー(株)と締結	1
平成21年度卒業式	2
学生表彰	4
現代GP学習成果発表会	5
健康福祉研究会 体力自己管理	6
スポーツシンポジウム	7
国際交流会館(仮称) 引渡し	8
スクーリング報告会	9

東北リコー(株)と健康指導協力に関する提携



柴田町に所在する東北リコー(株)と本学は3月18日、「健康増進支援協力覚書」を締結しました。東北リコー(株)社員の健康管理(特にメタボ対策)という課題に、身体活動をベースとしてスポーツや高齢者の健康維持・介護予防などの研究と指導者養成を行ってきている仙台大学のノウハウを提供します。

調印式はA棟大会議室で行われ、東北リコー(株)の敦賀博社長が「今回の締結は、地域における心身の健康に関する多面的な産学連携活動の第一歩ともいえるのではないかと考えている」と挨拶しました。朴澤泰治学長は「次の社会を形成する世代層にも仙台大学の資源を活用していただいて、地域社会の健康を構築する第一歩が踏み出せる」と述べました。

今後、本学から東北リコー(株)に定期的に講師と学生を派遣し、ノルディックウォーキングやボーンエクササイズ(骨を鍛える)などの指導と、メンタルヘルスに関する講演などを行う予定。学生も指導現場に派遣することで、即戦力としての指導者の育成につながることから、東北リコー(株)だけに止まらず、柴田町内の各事業所とも提携し、町民の方々の健康増進メタボ対策に寄与することで地域貢献を積極的に推進したいとしています。

なお、この締結式は日本経済新聞社と河北新報社で紹介されました。

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

平成21年度卒業式

～ 仙台大学10,000人目の卒業生～



3月20日(土)に第2体育館において「第40回 回体育学部卒業証書・学位記授与式 並びに第11回 大学院学位記授与式」を挙行政、体育学部475名(体育271名、健福125名、運栄79名)の卒業生と大学院27名の修了生が学び舎を巣立ちました。昭和42年に体育学部体育学科の単科大学として開学してから43年。今年度は朴沢学園130周年の節目の年でもありました。この第40回卒業証書授与式で卒業生数1万人を越えました。

証書番号10000の卒業証書を手にした、健康福祉学科 金沢優佑さん

【大学での思い出】

福祉の勉強と、好きなサッカーをしたかったこともあり、仙台大学健康福祉学科に入学し、今日卒業を迎えました。大学時代の思い出深いものといえば、様々に経験させていただいた「実習」です。丸森ロイヤルケアセンターや和風園、大河原社会福祉協議会などの実習を通じ、「介護」の現場に直接足を運んで経験したことで、やりがいを感じましたし、将来の目標が定まったように思います。



将来は、社会福祉士の資格を取得し、ソーシャルワーカーとして働くことを目指します。実績を重ねるために、卒業後4月から仙台富沢病院で介護職として勤務します。

【次に続く後輩たちへ】

特に伝えたいことは、「実習」は、辛いと思うこともあるかもしれませんが、でも乗り越えていけば達成感や、得られるものは大きいはずです。私も卒業の日を迎え、途中で諦めなくて良かったと思っています。皆さん、頑張ってください。

後輩による手厚い祝福



卒業式記念パーティー



大学院謝恩会



各賞受賞者は以下の通り

【日本介護福祉士施設協会会長賞】

たかぎ よしえ
高木 快枝

【全国栄養士養成施設協会会長賞】

かたあか ゆい
片岡 由維



高木快枝



片岡由維

【学生表彰】



田中美衣



佐藤若菜

<理事長特別賞>

氏名	主な成績	
田中美衣	第25回ユニバーシアード大会柔道競技	女子団体 個人63kg級 優勝 第2位

<学長賞>

氏名	主な成績	
田中美衣	第25回ユニバーシアード大会柔道競技	女子団体 個人63kg級 優勝 第2位
山下 聡史	2007アメリカンズカップ国際大会	スケルトン 第13位
寺尾 直希	第62回全日本学生体操競技選手権	団体総合 第3位
天野 裕章	第62回全日本学生体操競技選手権	団体総合 第3位
今田 保則	第62回全日本学生体操競技選手権	団体総合 第3位
山田 千裕	第61回全日本学生新体操競技選手権	団体総合、種目別：フープ、 種目別：リボン×フープ 第3位
千葉 智美	2008ITU世界デュアスロン大会	女子の部 第6位
久留 聡子	第29回全日本軽量級選手権大会	舵手つきクワドルブル 優勝
齋藤 裕輔	第47回全日本新人選手権大会	エイト 優勝
菅井 竜介	第86回全日本選手権大会	舵手なしフォア 優勝
粕谷 健太郎	第86回全日本選手権大会	舵手つきフォア 優勝
赤津 龍男	第47回全日本新人選手権大会	エイト 優勝
石原 夏海	平成21年度日本カヌースプリント選手権	カヤックペア1000m 優勝
斉藤 大輔	2009日本学生陸上競技個人選手権	三段跳び 優勝
佐藤 若菜	第78回日本学生陸上競技対抗選手権	ハンマー投げ 優勝
延味 由起	2009日本グランプリ静岡国際大会	やり投げ 第2位
佐瀬 一晃	第78回日本学生陸上競技対抗選手権	棒高跳び 第3位

平成21年度 学生表彰



平成21年度学生表彰式が3月5日(金)にKMCH大会議室で開催され、朴澤学長より6団体、8個人にスポーツ功労賞が贈られました。

個人	主な成績	
板垣 沙織	全日本学生柔道体重別選手権大会	78kg超級 ベスト8
五味 奈津実	全日本学生柔道体重別選手権大会	52kg級 第3位
佐藤 寛大	日本学生陸上競技対校選手権大会	男子やり投げ 優勝
亀山 耕平	全日本体操競技団体種目別選手権大会	種目別あん馬 優勝
宗像 陸	全日本学生体操競技選手権大会	種目別ゆか 第2位
上村 昌志	日本学生スリットライズ選手権大会	第4位
小沢 まり	アメリカンズカップ国際大会	女子スケルトン 第12位
西村 光生	U23世界選手権	軽量級舵手なしフォア 第2位

団体	主な成績	
漕艇部	全日本軽量級選手権大会 男子舵手なしフォア、女子舵手つきダブル	第2位
	全日本大学選手権大会 男子舵手つきフォア	優勝 他、多数入賞
	全日本選手権大会 女子舵手なしペア	第2位 他、多数入賞
	全日本新人選手権大会 男子エイト	優勝 他、多数入賞
新体操競技部	全日本学生新体操競技選手権大会 団体総合	第3位
	全日本新体操競技選手権大会	第7位
体操競技部	全日本学生体操競技選手権大会 団体総合	第4位
柔道部	全日本学生柔道優勝大会 女子団体5人制	ベスト8
	全日本学生柔道女子選抜優勝大会 女子体重別7人制	ベスト8
アメリカンフットボール部	クラッシュボウル	ベスト8
男子バレーボール部	全日本大学ビーチバレーボール選手権大会	ベスト8

学校支援ボランティア感謝状贈呈式について



3月19日(金)にA棟大会議室において、平成21年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式が行われました。小・中学校での学習支援や部活動支援などを行った学生に仙台市・柴田町・岩沼市の教育委員会担当者から感謝状が贈呈されました。今年度表彰を受けたのは、仙台市34名、柴田町9名、岩沼市2名の合計45名です。

受賞後に学校支援ボランティアを代表して学生

4名が感想を述べ、仙台市立郡山中学校で学習支援を行った植田 麻季さん(健康福祉学科4年)は、「郡山中のボランティア相談員として週1回相談室に待機し、そこに来る生徒の話聞くのが主な仕事でした。相談室に来るのは、クラスや部活動に居場所がない生徒達で、その中には不登校の生徒もいました。そんな彼らと他愛のない話や、簡単なゲームをしてコミュニケーションを取る事で、相談室に来た時は表情が暗く、泣いていた生徒達が徐々に明るくなっていく事にたいへん喜びを感じました。不登校だった生徒が教室登校できるようになったという嬉しい出来事もありました。私の力は小さなものですが、相談室に来る生徒達にとっては大きな存在だったのかもしれない。学校支援ボランティアを通して、言葉の重みとコミュニケーションの大切を感じることができました。4月からは社会人ですが、言葉を大切にして生活していきたいと思います。ありがとうございました。」と感謝の弁を述べました。

現代GP - 健康づくり運動サポーター学習成果発表会



3月18日(木)にホテル原田(柴田町内)で現代GPの健康づくり運動サポーター学習成果発表会が行われました。柴田町民43名と大学地域評価委員の前で、学生13名がこれまで磨いてきた成果を披露しました。参加者の多くは仙台大学転倒予防教室に参加され、学生を温かく見守ってきてく

ださった方々です。学生たちはお礼の気持ちをこめて司会進行、健康講話、楽しい運動指導を行い、終始和やかで楽しそうな雰囲気でした。大学地域評価委員の中には、初めて学生の活動をご覧になった方もおり、学生の指導に高い評価をいただきました。

懇親会では滝口柴田町長が「柴田町は今後も仙台大学と協力して支援していきますので、町民のみなさまもぜひ健康づくりを続けてますます元気な町にしていましょう。」と挨拶されました。その後、学生たちは町民と思い出や苦労話をしながら交流を深めました。

また、発表会当日には、「資格認定証授与式」と「第5回大学・地域評価委員会」が開催され、「資格認定証授与式」では上級2名、中級4名、初級7名に認定証が学長より手渡されました。「第5回大学・地域評価委員会」では平成21年度及び事業がスタートしてからの3年間についての実績報告がなされ、来年度もこの事業を継続していくことが確認されました。



第5回健康福祉研究会を開催



第5回健康福祉研究会が、3月22日（木）仙台ガーデンパレスにおいて開催されました。健康福祉研究会は、健康福祉学科の学生、卒業生、教員および関連の方々等相互の学習研鑽の場として毎年開かれています。これまで、介護、福祉や教育（福祉科、特別支援）などについて学んできましたが、今回は近年、介護予防等でますます注目されている「健康運動指導士」をテーマとしました。約200人が参加し、卒業生3名による事例報告や特別講演を通して、健康運動指導士への理解を深めました。

研究会でははじめに、小松正子教授から健康運動指導士をとりまく状況や仙台大学卒業生の健康運動指導士がメタボリックシンドローム特定保健指導や運動療法等の現場で活躍していることが報

告されました。次に、健康運動指導士として現場で活躍している卒業生の咲間優氏（坂総合クリニック運動療法センターメディカルフィットネス“のびのび”、健康福祉学科1期生）、北村綱為氏（三重県鈴鹿回生病院健康増進課、健康福祉学科7期生・大学院スポーツ科学研究科8期修了生）、國分裕子氏（栃木県健康倶楽部、健康福祉学科8期生）から、生活習慣病への運動療法の実践報告が具体的かつ詳しい内容で発表されました。



最後に特別講演として、（財）健康福祉事業団・仙台市健康増進センター健康増進課健康長寿係長の入江徳子氏から「大学に求められる健康運動指導・介護予防の人材育成」のお話をいただきました。この中では、健康運動指導士に求められることとして「運動指導技術だけでなく、相手の体調・気分などの変化を“感じる力”が大切」と強調されました。



研究会は「介護予防と健康運動指導士の関わりが良くわかった」「卒業生が大いに活躍していることがわかり良かった」などと全般に好評で、学生からも「現場実習にすぐにでも行きたくになりました」などの感想が寄せられ、研究会開催の意義を感じられるものとなりました。

体力自己管理システム運用開始



文部科学省採択事業である「ICカードを利用した栄養・健康・体力データの自己管理システム」が3年目となり、栄養・健康に引き続いて「体力データ自己管理システム」の運用が開始されました。体力測定機器は第三体育館1Fの体力測定室と形態計測筋力測定室に配置され、一種目からの測定、データ蓄積が可能です。学生がこのシステムを使って体力の自己管理に活用することが期待されます。

3月26日にはB・L・S部員が利用し、業者からの説明を受けながら一通りの体力測定を行いました。

スポーツシンポジウムを開催

競技力向上には何が必要か ～頂点への道を検証する～



3月1日(月)に仙台市、河北新報社、本学主催で盛大にメディアテークを会場にスポーツシンポジウム「競技力向上には何が必要か～頂点への道を検証する～」を開催し、約300名の来場がありました。

第1部の基調講演では、気仙沼市出身のスポーツジャーナリスト生島 淳氏に「強くなる

ために、何をすべきか」と題して講演いただきました。バンクーバー冬季五輪の男女フィギュアスケートで好成績を残した日本代表選手たちを例に「強くなるためには競争力、インフラ整備、経済力、卓越した指導者が必要だ」と訴えました。

第2部のパネディスカッションでは、仙台89ERS球団代表の中村彰久氏、マーティ・キーナート副学長(特命事項担当)、佐藤久夫准教授が「競技力向上には何が必要か」に関して指導者のあり方などについて意見交換を行いました。

キーナート副学長は「選手を励ますか、怒るかはバランスが大切。監督や指導者は心理学者にならないといけない。怒る時は他の選手が見えないところで注意し、説明する。チームメートの前では恥をかかせないことが重要。」と指摘。佐藤准教



授は、創部5年目の明成高校男子バスケットボール部を全国制覇に導いた経験を踏まえ「競技力向上には、選手への強い要求は避けて通れない。選手はそれに応えようと練習するうちに普通になれるようになる。無理と思われたことが解決し、個々、チームが強くなる。」と話しました。

中村氏は「組織の他に周囲の環境が重要。できるだけ多くの人に色々な形で参加してもらおうチームになることが大事。」と述べられました。



長澤教授が写真展開催 ～含蓄ある一瞬～



3月23 - 25日に学生食堂の一角を使って本学を3月末付で退官なさる長澤教授の写真展が開催されました。体操の世界選手権大会で撮影した素晴らしい写真です。選手として活躍していた長澤先生の若かりし時の写真もあり、大変興味深いものでした。

今回の写真展を開催するにあたり、長澤教授がこれまで撮ってこられた写真をまとめた冊子(写真集)を広報室でも頂いておりますので、写真展を見逃した方は是非、広報室までおいで頂き手にとってご覧下さい。

国際交流会館(仮称)が完成

昨年12月から着工していた国際交流会館(仮称)が完成し、3月25日に朴澤学長はじめ関係教職員立会いのもと引渡しが行われました。この建物は3階建てで寮室40部屋とゲストルーム4室を有しています。主に留学生と海外からの来賓の宿泊施設として利用されます。



多目的室



寮室



ゲストルーム



シャワー室



外観



調理コーナー



入館管理

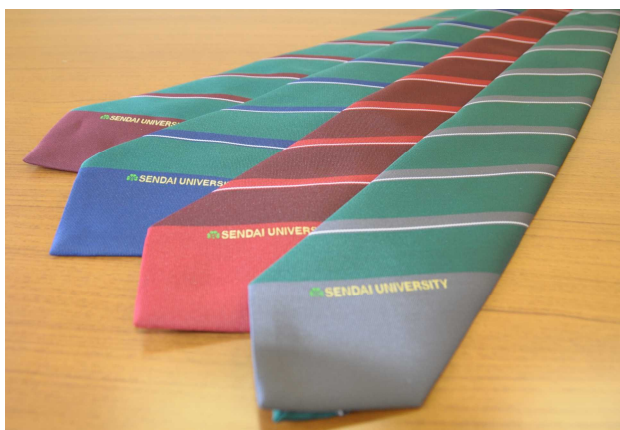


玄関



ロビー

ネクタイ4柄が新販売になりました

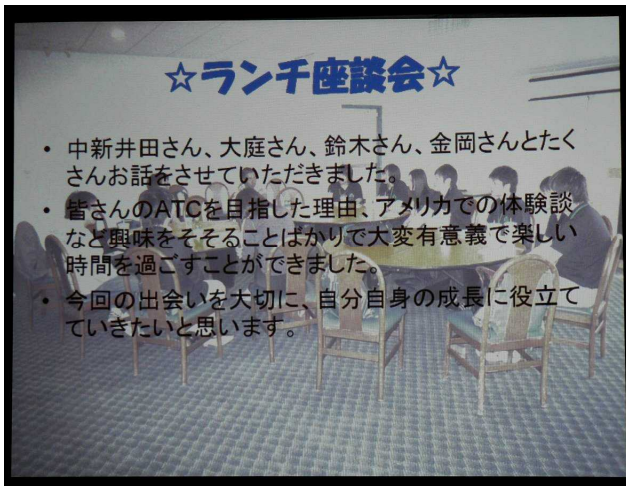


前回のマンスリーで新販売のネクタイ(絹100% 100% ¥4,000)4柄を紹介しましたが、学生向けのネクタイ(ポリエステル100% ¥2,500)4柄も新販売となりましたのでご紹介します。

タカトモスポーツで販売(春休み期間中は休館のため学生支援室で販売)しておりますので是非お買い求め下さい。

世界を身近に味方に 鉄は熱いうちに打て Winter 2010

～ハワイ州立大学スクーリングビギナーズコース報告会～



- ・中新井田さん、大庭さん、鈴木さん、金岡さんとたくさんお話をさせていただきました。
- ・皆さんのATCを目指した理由、アメリカでの体験談など興味をそそることばかりで大変有意義で楽しい時間を過ごすことができました。
- ・今回の出会いを大切に、自分自身の成長に役立てていきたいと思えます。

3月15日 第4体育館演習室にて、先月のMonthly Reportで紹介しました通り、ハワイ州立大学(UH)スクーリングビギナーズコースの「報告会」が開催され、朴澤学長、キーナート副学長、発表学生7名を初め、関係者約20名が出席しました。学生達は2月22日の帰国直後からこの日のために、現地で学んだことを整理し、パワーポイントや写真を駆使して、毎日プレゼンテーションの準備に励んできたそうです。



彼らが1番心に残ったものの一つとして、本学初のATCとなった鈴木のみみや、遠隔授業を指導下させている金岡友樹氏他との「座談会」を上げ、「ハワイでは選手の

ために治療の一環として行った行為が逆に訴えられ、訴訟になったりするケースがあることを聞き、アメリカならではと驚いた」という感想を述べたりと、アスリートのケア一つをとってみても、日本とアメリカの仕組みに大きな違いがあることを学んだようでした。

また、朴澤学長から「リーマンショックを知っていますか?」と尋ねられ、その影響をUHや現地での様子から感じたかどうか?を質問されると、「ルーズベルト高校を訪問した際、トレーニングルームで働いていたATCの方が、景気悪化の波を受け、勤務日数が減ったと言っていました」と答えるなど、アメリカの経済情勢がトレーナーの生活をも直撃する厳しさに、改めて気がついたそうです。

リーダーの小西先生からは、経験しただけではなく報告することが大切というコメントがあり、自分達が見て聞いて得た事柄を一過性のものに終わらせず、みんなで意見を出し合い、資料をまとめ、分かりやすく人前で発表する訓練もまた、スクーリングの貴重な学びと言えるでしょう。

最後に、キーナート副学長より、日ごろの英語の勉強がいかに大事であるか、ご自身が今でも日本語を学び続けている体験をまじえてお話があり、報告会は終了しました。



出席した学生の1人である体育学科1年の遠藤蓉子(えんどう ようこ)さんは「2年生になったら是非スクーリングに参加したいと思い、今日の報告会を楽しみにしていました。先輩に教えていただいた内容を参考に、次は自分がハワイ行きを実現できるよう、普段から勉強していきたいと思えます」と話していました。7年目を迎えるUHスクーリングの歴史は、学生達の意欲と熱い心に支えられ、後輩達へと受け継がれていきます。



大崎市スポーツ振興計画策定記念イベント ～フレンドリースポーツフェスティバル in 大崎～



<イベント開催報告>

イベントのマネジメントは、仲野研究室でレクリエーションやイベントマネジメントをテーマに卒論に取り組んでいる学生、レクリエーション部の部員を中心とした学生の指導スタッフ19名と私の20名が担当しました。具体的な業務は、企画書の作成、イベントポスター作成、会場レイアウト、スケジュール、司会進行などです。当日体験していただいた主な種目は、4面バレーボール、パドルテニス、バグギー、シャフルボード、ネットパスラリー、バレーボール型・テニス型・バドミントン型・卓球型の軽スポーツなどです。

平成22年3月13日(土)に、上記のスポーツイベントが古川総合体育館にて開催されました。主催は大崎市教育委員会、共催は仙台大学です。大崎市では平成21年度に、22年から10年間のスポーツ振興基本計画を策定しました。その計画を策定するに当たり、同市の教育長と学長との間で策定に係るアドバイス及びイベント開催業務委託契約が交わされ、教員の仲野が業務を遂行いたしました。今回のイベント開催も、委託業務の一環として企画から運営までを仙台大学が担当させていただきました。また、受付の横にパネルが設置され、参加者に対して振興計画の内容やアンケート調査の分析結果、既存の総合型地域スポーツクラブなどが紹介されました。

参加者は、老若男女並びに障害のある方も含めて139名でした。当日参加として、地元の中学校の生徒さんたちが、部活の一環として顧問の先生と共に100名近く参加してくれたことで、イベントそのものが大いに活気付くと共に、学生スタッフとの楽しいコミュニケーションをもたらしてくれました。

イベントの内容とその目的は、市民の誰もが親しめるニュースポーツ及び軽スポーツを体験してもらうことで、スポーツをすること、体を動かすことの楽しさや喜びを啓発することにあります。その根拠は、市民の週1回以上のスポーツ実施率が29.2%と低い、児童・生徒の体格の平均値は全国的に観ても高い水準にあるが、一方で体力・運動能力は逆に低い水準にある、軽スポーツやアウトドアスポーツに対する市民のニーズが高いといった点にあります。

最後に、これから先、スポーツ振興基本計画が完了するまでの10年間、可能な限り大崎市のスポーツ振興のサポートをしていきたいと考えています。

(仲野隆士：大崎市スポーツ振興審議会アドバイザー)



第22回仙台大学バスケットボール・ワークショップ



このワークショップは平成元年からバスケットボールについて実践的研修を試みようとしたもので、バスケットボール部学生が大会運営全てを担当し、案内送付、会場やお弁当の手配、審判などの一切を行っています。今年も全国から男子37校、女子54校の参加をいただいています。

3月25 - 31日に本学体育館や白石文化体育活動センターCUBE等を使用して第22回仙台大学バスケットボール・ワークショップが開催されています。

女子代表の大橋由実さん(体育学科3年)は「自分達が大会を運営する事で学ぶことは多いですし、このワークショップをきっかけに高校生が仙台大学に興味を持って欲しい。」と話しています。

大会期間中はATルームの学生トレーナーが各会場に待機し、選手のケガに対する応急手当やアイシング・テーピングなどを行ないました。

亀山耕平さんがW杯シリーズ・モンリオール大会で鉄棒金メダル



体操競技部の亀山耕平さん（体育学科3年）が種目別で競われるW杯シリーズ・モンリオール大会に日本代表として出場し、鉄棒での金メダルをはじめ、エントリーした3種目全てで表彰台（あん馬/銅、つり輪/銅）に上がりました。

亀山耕平さん

初めての国際大会ということもあり、普段どおりの演技ができませんでした。内容に悔いは残りましたが、日本とは違う環境で演技する経験ができたことと、その環境下でも結果を残せたことには満足しています。今大会の結果を今後への自信にしたいと思います。

写真提供：鈴木良太新助手

FLOOR BALL 同好会の2名が日本代表として世界学生選手権に



昨年4月に設立したFLOOR BALL（フロアボール）同好会から世界学生選手権日本代表に2名が選出されました。畑内一輝さん（健康福祉学科2年）と木村恭吾さん（体育学科1年）で、2人は5月12 - 16日にスウェーデン・ウメオでの大会に臨みます。

あまり馴染みの少ないフロアボールです

が、ユニバーサルホッケーに酷似した室内ホッケーです。日本でも全国各地にチームが結成され、地方大会・全国大会が行われています（大学生のみの大会はない）。北欧ではたいへんメジャーなスポーツで、世界選手権には約20ヶ国が参加しており、オリンピック種目になる可能性を秘めた競技です。

FLOOR BALL同好会を立ち上げた畑内さんは、中学校の時にユニバーサルホッケーの楽しさを知り、部活動で陸上競技に励む傍ら、高校2年生から八戸市にある地域のフロアボールクラブに所属していたそうです。フロアボールの魅力を大学でも広めようと、周囲の友達に声かけを行い、現在は1、2年生を中心に28名（男女比率は半々）が所

属しているそうです。しかし、フロアボールは試合中のメンバー交代が自由にできるため、男子20名、女子20名いることが理想となります。今年度は少人数ながらも秋の大会から仙台大学単独でチームを結成して東北大会に出場し、一般の部で男子は9位、女子は4位に入りました。日本選手権には東北代表選抜として男子4名と女子2名が選抜され、女子チームは4位という結果を残しました。2人は「世界選手権では日本代表、仙台大学の代表として頑張ってきます」と力強く語り、「同好会の方でも十分戦えるメンバーを募り、東北大会で上位入賞を目標にして頑張ります。そして学内にフロアボールを知ってもらい、部への昇格を認めてもらいたいです。」と話しています。

フロアボールとは

ゲームは6人対6人で行われ（フィールドプレイヤー5人+キーパー1人）。1チーム10~20名で構成され10~



20分前後半の間で、自由に交代できます。プラスチック製のスティックとボールを使用し、相手のゴールにボールを入れると1点となります。コートのはしらはフットサルとほぼ同サイズ。アイスホッケーと違い、激しいボディチャージや危険なプレイは禁じられています。

第29回縦の木会長杯争奪高校女子バレーボール大会、 第11回松本昌三杯女子中学生バレーボール大会を開催

3月21、22日に仙台大学縦の木会が主催する「第29回縦の木会長杯争奪女子高校バレーボール大会」と「第11回松本昌三杯女子中学生バレーボール大会」が第一・第二体育館、船岡体育館を会場にして行われました。仙台大学縦の木会は、本学バレーボール部同窓会の名称で、鈴木清和教授が会長を務めています。「縦の木会長杯争奪女子高校バレーボール大会」は、バレーボールの普及・OBの指導力向上・選手の技術向上を目標にスタートし、今年で第29回を迎えました。この大会は部活動の顧問あるいはコーチとして本学の卒業生（バレーボール部以外でも可）の集いとしており、「中学生の大会があってもいいのではないか」というOBの声を反映し、当時、本学で教鞭を取られていた松本昌三先生(国際審判員)に優勝杯を寄贈いただき「松本昌三杯女子中学生バレーボール大会」もスタートしました。年々、教員になるOBが増えると共に参加校も増え今年は中学校12校と高校7校の参加があり、盛会な大会となりました。

【高校の部 優勝】長岡大手高校（新潟県）

顧問：上村裕希先生（26回生：バレーボール部OB）



【中学校の部 優勝】田尻中学校（宮城県）

顧問：堀谷美姫子先生（8回生：陸上競技部OG）

